

1. 全般的な概況

年初計画との比較

(単位：億円)

	年初計画	平成18年度 中間期 (実績)	年初計画比
連結売上高	23,500	23,623	+123 (+0.5%)
連結営業利益	200	506	+306
連結経常利益	0	376	+376
連結当期純利益	0	148	+148

当社グループを取り巻く事業環境は国内外ともに安定的に推移しておりますが、市場における競争環境は厳しさを増しております。

このような状況の中で、確実に利益成長を実現するという方針のもと、主に海外ビジネスの強化およびグループ全体における徹底した効率化に取り組むことを目標とし、年初計画を策定いたしました。

売上高は、国内のシステムインテグレーションやネットワークプロダクト、海外のサービスビジネスが伸長したことなどにより年初計画を上回りました。営業利益は、売上高の伸びに加え、ものづくりの強化やコスト効率の改善により年初計画を上回りました。営業利益の増加に伴い、経常利益および当期純利益も年初計画を上回りました。

前年同期との比較

(単位：億円)

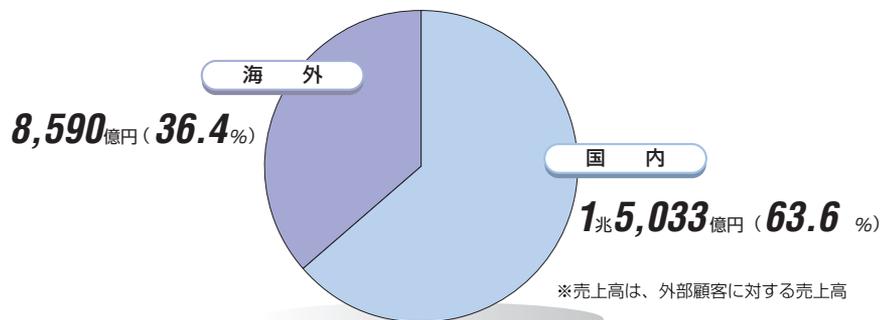
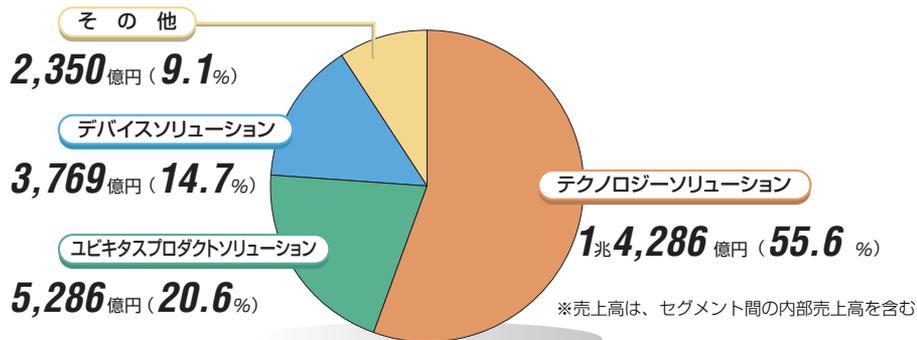
	平成17年度 中間期	平成18年度 中間期	前年同期比
連結売上高	21,923	23,623	+1,700 (+7.8%)
連結営業利益	475	506	+30
連結経常利益	158	376	+217
連結当期純利益	76	148	+71

当中間期における売上高は、2兆3,623億円（前年同期比7.8%増）となりました。国内では、前年同期比で投資が大きく減少した携帯電話基地局や、需要の低迷した個人向けパソコンが伸び悩みましたが、金融や製造・流通分野を中心にシステムインテグレーションが回復を示したほか、携帯電話やLSI、電子部品が増収となりました。海外では、英国や北米のサービスビジネスが好調であったほか、光伝送システム、HDD（ハードディスクドライブ）、電子部品などが増収となりました。

営業利益は、海外における事業の拡大や、積極的な研究開発投資により販売費および一般管理費が増加したものの、海外を中心にサービスビジネスが好調であったことや、コスト削減の効果により、506億円（前年同期比30億円増）となりました。経常利益は、営業外損益が退職給付積立不足償却額の減少や金融収支の改善により改善したことから376億円（前年同期比217億円増）となりました。この結果、当期純利益は148億円（前年同期比71億円増）となりました。

2.セグメント別の概況

■ 連結売上高の構成

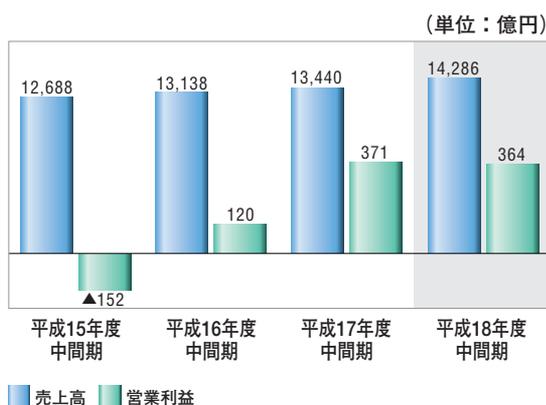


■ セグメント別の割合

連結売上高 (億円)		連結営業利益 (億円)	
テクノロジーソリューション	14,286 (55.6%)	テクノロジーソリューション	364 (47.1%)
ユビキタスプロダクトソリューション	5,286 (20.6%)	ユビキタスプロダクトソリューション	199 (25.8%)
デバイスソリューション	3,769 (14.7%)	デバイスソリューション	160 (20.7%)
その他	2,350 (9.1%)	その他	49 (6.4%)

※売上高はセグメント間の内部売上高を含む
 ※各セグメントを構成する主要な製品、サービスについては「当社グループの主要な事業内容」(P14)をご参照下さい

テクノロジーソリューション



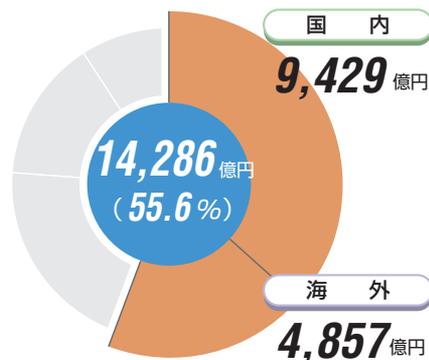
売上高 **1兆4,286** 億円(前年同期比6.3%増)

営業利益 **364** 億円(前年同期比6億円減)

テクノロジーソリューションは、最先端の技術に基づいた高性能・高信頼のIT基盤であるシステムプラットフォームと、これらを活用した各種サービスなど、企業・官公庁のお客様向けの製品・サービスにより構成されます。

テクノロジーソリューションでは、お客様との長期的なパートナーシップに基づき、IT基盤の構築から、コンサルティング、システムインテグレーション、アウトソーシングに至るまで、お客様のライフサイクル全般にわたるトータルソリューションを提供し、当社グループの中心ドメインとして利益と成長を追求しております。

当中間期における売上高は、1兆4,286億円(前年同期比6.3%増)となりました。国内では、ほぼ前年同期並でしたが(前年同期



注1：売上高はセグメント間の内部売上高を含む
注2：営業費用の配賦方法変更に伴い、平成15年度から平成17年度の営業利益を比較のため組替えて表示

比0.8%減)、海外では前年同期を大きく上回りました(前年同期比23.3%増)。

営業利益は364億円(前年同期比6億円減)となりました。

テクノロジーソリューション	売上高構成比
システムプラットフォーム ・システムプロダクト (サーバ、ストレージシステム、ソフトウェア) ・ネットワークプロダクト (光伝送システム、携帯電話基地局 等)	23.7%
サービス ・システムインテグレーション ・アウトソーシングサービス 等	76.3%

システムプラットフォーム

システムプラットフォームでは、コスト削減や効率化をさらに進めるため、開発・設計といった上流工程を含むバリューチェーン全体のものづくり革新に継続して取り組んでまいりました。

また、IT基盤「TRIOLE」のグローバル展開を進めるとともに、海外における販売強化のため、お客様のシステム構築を支援するオープンシステムの検証施設（プラットフォームソリューションセンター）をこれまでの日本、欧州、米国などの6拠点に加え、平成18年4月に上海、同年6月に香港に開設いたしました。*

当中間期における売上高は、携帯電話基地局の需要が一巡し、減収となりましたが、光伝送システムやUNIXサーバが海外で好調に推移したことなどにより、

3,387億円（前年同期比1.8%増）となりました。

営業損益は、携帯電話基地局の減収影響のほか、グローバルな価格競争激化の影響や先行投資の負担継続により、51億円（前年同期比78億円減）の損失となりました。



プラットフォームソリューションセンター（上海）
※平成18年11月、大阪にも開設いたしました。

サービス

サービスでは、国内においては、収益力の向上を図るため、プロジェクトマネジメントの強化および安定的な収益が見込まれる運用サービスビジネスや、パッケージ・サービスビジネスの強化を進めてまいりました。また、海外では、ビジネスの拡大を図るため、地域に対応した戦略を積極的に展開してまいりました。

当中間期における売上高は、国内では、金融分野や製造・流通分野を中心にシステムインテグレーションが回復を示し、海外では、英国のアウトソーシングサービスが引き続き好調に推移したほか、買収により北米のサービスビジネスが拡大したことなどにより増収となり、1兆898億円（前年同期比7.8%増）となりました。

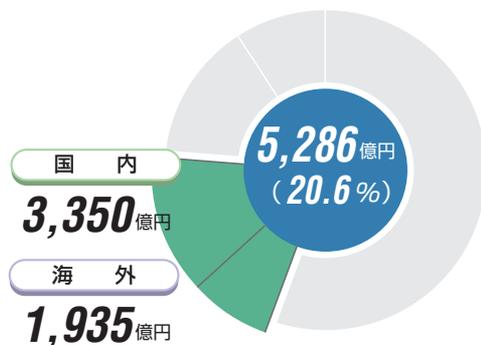
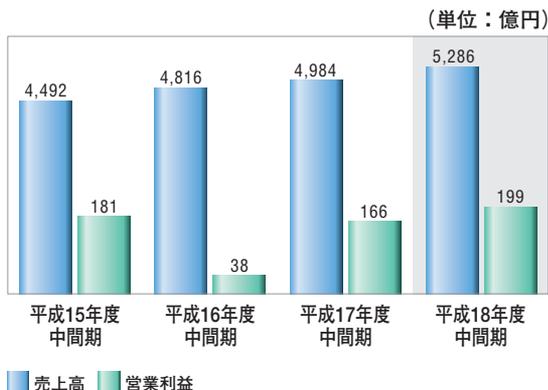
営業利益は、商談提案活動などの戦略費用を増加させましたが、コストダウンや、海外のアウトソーシ

ングなどのサービスビジネスの増収効果などにより、416億円（前年同期比71億円増）となりました。



「内部統制」「安心安全」「環境」などの新しい企業テーマに関する研修・教育サービスを提供し、IT支援やパッケージを紹介する場として平成18年8月に「Enterprise Innovation Support Center」(エンタープライズ・イノベーション・サポートセンター)を開設いたしました。(東京都港区)

ユビキタスプロダクトソリューション



注1：売上高はセグメント間の内部売上高を含む
 注2：営業費用の配賦方法変更に伴い、平成15年度から平成17年度の営業利益を比較のため組替えて表示

売上高 **5,286** 億円(前年同期比6.1%増)

営業利益 **199** 億円(前年同期比33億円増)

ユビキタスプロダクトソリューションは、個人のお客様向けを中心としたパソコン、携帯電話や、HDD（ハードディスクドライブ）などにより構成されます。

ユビキタスプロダクトソリューションでは、引き続き徹底したコスト削減を進め、収益力の向上に取り組んでまいりました。このほか、パソコンでは、セキュリティやAV機能の強化などによる付加価値の高い製品を投入し、販売拡大を目指しました。携帯電話では、ユニバーサルデザインの機種を中心とした独自製品により、差別化を図りました。HDDでは、さらなる品質強化を図るとともに垂直磁気記録方式などの新技術への対応を強化いたしました。

当中間期における売上高は、5,286億円(前年同期比6.1%増)となりました。パソコン

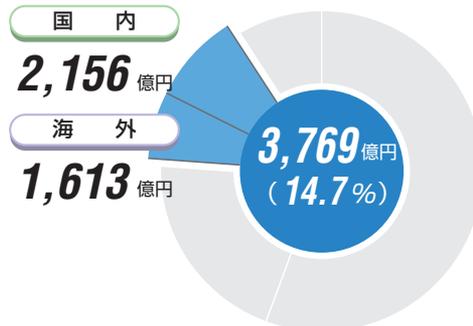
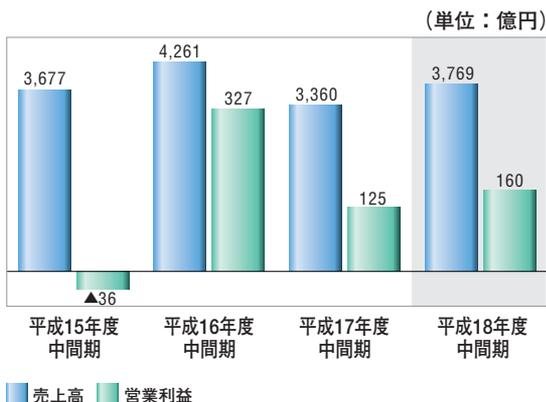
は海外で好調に推移したものの、国内で個人向け需要が低迷したことにより伸び悩みました。携帯電話は堅調に推移し、HDDは高い需要に支えられ好調に推移し、増収となりました。

営業利益は、パソコンやHDDが国内外で価格競争激化の影響を受けましたが、ものづくりの強化によるコストの削減効果や品質強化などにより、199億円(前年同期比33億円増)となりました。



FMV-BIBLO 「NFシリーズ」

デバイスソリューション



注1：売上高はセグメント間の内部売上高を含む
 注2：営業費用の配賦方法変更に伴い、平成15年度から平成17年度の営業利益を比較のため組替えて表示

売上高 **3,769** 億円(前年同期比12.2%増)

営業利益 **160** 億円(前年同期比35億円増)

デバイスソリューションは、デジタル家電、自動車、携帯電話、自社のサーバなどに搭載されるロジックLSIや、関連する電子部品などにより構成されます。

デバイスソリューションでは、ロジックLSIへの経営資源の集中という事業方針のもと、先端ロジック事業と基盤ロジック事業のバランスをとりながら、収益力の拡大を目指しております。

当中間期には、三重工場の300mmウェーハ採用のロジックLSI量産第1棟(300mm第1棟)において製造能力を強化したほか、300mm第2棟の建設に着手いたしました。また、基盤ロジック事業の強化を図るため、平成18年9月にスパンション・ジャパン社と同社国内半導体工場を購入する契約を締結いたしました。

当中間期における売上高は、自動車向けお

よびデジタル家電向けを中心としたロジックLSIの需要が堅調であったことに加え、300mm第1棟の本格稼働により売上が増加したことから、国内外ともに増収となり、3,769億円(前年同期比12.2%増)となりました。

営業利益は、次世代技術の開発費の負担が増えましたが、ロジックLSIの増収効果や、その他電子部品が引き続き好調に推移したことにより、160億円(前年同期比35億円増)となりました。



自動車向けフラッシュマイコン